

「2022年JNTO国際会議統計」正誤表

2023年12月に発行いたしました「2022年JNTO国際会議統計」において、記載内容の一部に誤りがございました。お詫びして下記の通り訂正させていただきます。

なお、現在ウェブサイトに掲載している統計集(PDF)については、下記訂正箇所を反映した更新版となります。

記

＜訂正箇所＞

- ① 第1章5ページ 「1年別国際会議の開催状況（開催件数、参加者数、開催延べ日数）」本文

誤) 2019年と比べると0.92日増の3.15日と、

正) 2019年と比べると0.86日増の3.15日と、

- ② 第1章11ページ 図表1-14「都市別国際会議の開催状況（2019年～2022年）〈2022年の外国人参加者数上位10都市を抜粋〉」

・札幌市：2022年外国人参加者数 誤) 1,324 → 正) 1,343

2022年参加者総数 誤) 40,222 → 正) 13,023

2022年外国人参加比率(%) 誤) 3.3% → 正) 10.3%

・福岡市：2022年外国人参加者数 誤) 1,343 → 正) 1,324

2022年参加者総数 誤) 13,023 → 正) 40,222

2022年外国人参加比率(%) 誤) 10.3% → 正) 3.3%

(参考) 修正内容

開催都市	2019年		2020年		2021年		2022年		2022年外国人参加比率(%)
	外国人参加者数	参加者総数	外国人参加者数	参加者総数	外国人参加者数	参加者総数	外国人参加者数	参加者総数	
東京(23区)	42,398	308,276	1,620	15,544	110	29,196	8,174	62,196	13.1%
京都市	30,585	190,834	562	29,716	349	1,046	7,747	37,293	20.8%
横浜市	27,919	303,767	555	19,882	110	22,837	2,434	54,558	4.5%
堺市	404	505	-	-	-	-	2,200	9,858	22.3%
神戸市	15,641	158,094	302	6,567	42	318	1,399	18,960	7.4%
札幌市	8,218	51,090	73	142	-	-	1,343	13,023	10.3%
福岡市	11,590	119,340	401	4,806	-	-	1,324	40,222	3.3%
大阪市	11,060	149,117	374	2,512	-	-	1,108	2,945	37.6%
名古屋市	9,646	192,416	140	730	-	-	999	10,544	9.5%
仙台市	4,582	69,227	242	2,483	1	568	865	9,454	9.1%

③ 第 1 章 12 ページ 「8 会場別 国際会議の開催状況（開催件数、参加者数）」本文
誤) 大学では上位 10 位のうち、京都大学 (20 件)、東北大学 (13 件)、九州大学 (11 件)、
東京大学 (10 件)、名古屋大学 (10 件)、北海道大学 (9 件)、慶應義塾大学 (9 件) と
6 大学が占めた。

正) 大学では上位 10 位のうち、京都大学 (20 件)、東北大学 (13 件)、九州大学 (11 件)、
東京大学 (10 件)、名古屋大学 (10 件)、北海道大学 (9 件)、慶應義塾大学 (9 件) と
7 大学が占めた。

④ 第 1 章 12 ページ 図表 1-16 「会場別 国際会議の開催件数、参加者数 (2022 年) (開催件
数 5 件以上の会場)」

・ 東北大学：参加者総数	誤) 5,240 → 正) 4,885
外国人比率 (%)	誤) 6.8 → 正) 7.3
1 件当たりの平均参加者総数	誤) 403 → 正) 376

⑤ 第 2 章 23 ページ 「8 国・地域別 国際会議の開催状況② (アジア・オセアニア域内での比
較)」本文

誤) ICCA 統計による 2022 年の国際会議件数をアジア・オセアニア域内の国・地域別 (上位 10
位) でみると、

正) ICCA 統計による 2022 年の国際会議件数をアジア・オセアニア域内の国・地域別 (上位 15
位) でみると、

以 上